HISTORY

# TOYOBOの変化と技術の進化。時代のニーズに応えてきた約140年の歴史です。

時代の変化を敏感に察知し、高度な技術で市場と社会の期待に応えてきたTOYOBO。フィルム、自動車用資材、環境関連素材、バイオ・医薬など、多くの高機能製品を生み出し、社会の発展に貢献してきました。

1880 — 1920 — 1960 — 1970 — 1980 — 1990 — 2000 — 2010 — 2020

**第1の変革期**
**ポリマー技術の獲得と発展**

**第2の変革期**
**技術は細分化へ**

**第3の変革期**
**「つくる」から「ソリューション提供」へ**

**1882年**
大阪紡創立。日本初の民営会社組織による大規模紡績工場として紡績事業を開始。

**1914年**
大阪紡と三重紡が合併し東洋紡創立。

**1963年**
フィルム事業を開始。以降包装用フィルムの総合メーカーとしての地歩を固める。

**1956年**
合成繊維事業を開始。アクリル繊維からスタートし、1962年にはポリエステル繊維の技術を導入。

**1970年**
合成繊維事業や高分子化学の技術をベースにプラスチック事業を開始。

**1972年**
診断薬・原料事業に進出。パルプ事業における酵母研究が基盤となった。後に診断薬市場にも進出。

**1979年**
機能膜事業として、海水淡水化モジュールの商業販売を開始。後に血液透析用の「膜」の提供も開始。

**2020年**
持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みであるUNGC（国連グローバル・コンパクト）に署名。

**2020年**
最短60分以内で抽出から検出・測定可能な新型コロナウイルス検出キットを開発・販売開始。

**天然繊維の紡績・織布**

**化学繊維**

**酵母・培養**

**環境汚染を防止するために**
酵母によって糖類を分解・除去する廃液処理を実現

**合成繊維**

**清浄な空気のために**
VOCを効率的に吸着・脱着し、回収したVOCを再利用する装置を開発、提供

**快適な衣料のために**
綿・羊毛から合成繊維まで高機能繊維メーカーに発展

**デジタル環境の向上のために**
モニター画面に用いられる高透明性・易接着性に優れたフィルムを提供

**フードロス削減のために**
食品の保存期間を延長するフィルムを提供し廃棄食品の削減に貢献

**透析患者のQOL向上のために**
優れたろ過性能を持つ人工腎臓用の「膜」を提供

**海水を有効活用するために**
海水を淡水化する装置に用いられる「膜」を提供

**交通事故の被害軽減のために**
搭乗者を守るエアバッグに使われる最適な素材を提供

**フィルム**
- ☑工業用フィルム
- ☑包装用フィルム

**ライフサイエンス**
- ☑バイオ
- ☑メディカル
- ☑医薬品製造受託

**環境・機能材**
- ☑樹脂・ケミカル
- ☑環境・ファイバー

主に東洋紡エムシー㈱

**機能繊維・商事**
- ☑エアバッグ
- ☑機能繊維
- ☑衣料用繊維
- ☑商社機能

## 市場ニーズ・社会課題

**日本の産業発展**
- ・紡績業や製糸業など軽工業分野が活発化

**戦後復興、高度経済成長**
- ・衣食住の充実

**安定成長期**
- ・大気汚染による公害問題の増加
- ・衣服の快適性の追求
- ・モータリゼーションによる交通事故の増加

**進む情報化、国際化**
- ・生活習慣病の増加
- ・液晶テレビの普及
- ・世界各地で問題視される水不足

**高まる環境意識・デジタル技術の進化**
- ・新型コロナウイルス感染症拡大
- ・注目されるフードロス
- ・スマートフォンの普及